

特定行為区分	呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連	時間	29
特定行為名	(A) 侵襲的陽圧換気の設定の変更		
	(B) 非侵襲的陽圧換気の設定の変更		
	(C) 人工呼吸管理がなされている者に対する鎮静薬の投与量の調整		
	(D) 人工呼吸器からの離脱		
学ぶべき事項	(共通) 呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連の基礎知識	1. 人工呼吸の目的	
		2. 人工呼吸療法の適応と禁忌	
		3. 人工呼吸療法に関する局所解剖	
		4. 人工呼吸療法を要する主要疾患の病態生理	
		5. 人工呼吸療法を要する主要疾患のフィジカルアセスメント	
		6. 人工呼吸器管理の適応と禁忌	
		7. 人工呼吸器のメカニズム（種類・構造）	
	(A) 侵襲的陽圧換気の設定の変更	1. 侵襲的陽圧換気の設定の目的	
		2. 侵襲的陽圧換気の設定条件の変更の適応と禁忌	
		3. 侵襲的陽圧換気の設定条件の変更に伴うリスク（有害事象とその対策等）	
		4. 侵襲的陽圧換気の選択と適応	
		5. 侵襲的陽圧換気の設定条件の変更方法	
	(B) 非侵襲的陽圧換気の設定の変更	1. 非侵襲的陽圧換気の設定の目的	
		2. 非侵襲的陽圧換気の適応と禁忌	
		3. 非侵襲的陽圧換気の設定条件の変更に伴うリスク（有害事象とその対策等）	
		4. 非侵襲的陽圧換気の設定条件の選択	
5. 非侵襲的陽圧換気の設定条件の変更方法			
(C) 人工呼吸管理がなされている者に対する鎮静薬の投与量の調整	1. 人工呼吸管理がなされている者に対する鎮静の目的		
	2. 人工呼吸管理がなされている者に対する鎮静の適応と禁忌		
	3. 人工呼吸管理がなされている者に対する鎮静に伴うリスク（有害事象とその対策等）		
	4. 人工呼吸管理がなされている者に対する鎮静薬の選択と投与量		
	5. 人工呼吸管理がなされている者に対する鎮静の方法		
(D) 人工呼吸器からの離脱	1. 人工呼吸器からの離脱の目的		
	2. 人工呼吸器からの離脱の適応と禁忌		
	3. 人工呼吸器からの離脱に伴うリスク（有害事象とその対策等）		
	4. 人工呼吸器からの離脱の方法		
研修概要	(共通) 呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連の基礎知識	人工呼吸器の必要性を理解し、安全に人工呼吸療法を実践できる看護師を養成する。	
	(A) 侵襲的陽圧換気の設定の変更	医師の指示の下、手順書により身体所見（人工呼吸器との同調、一回換気量、意識レベル等）及び検査結果（動脈血液ガス分析、経皮的動脈血酸素飽和度（SpO2）等）が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し酸素濃度や換気様式、呼吸回数、一回換気量等の人工呼吸器の設定条件を変更する。	
	(B) 非侵襲的陽圧換気の設定の変更	医師の指示の下、手順書により、身体所見（呼吸状態、気道の分泌物の量、努力呼吸の有無、意識レベル等）及び検査結果（動脈血液ガス分析、経皮的動脈血酸素飽和度（SpO2）等）等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、非侵襲的陽圧換気療法（NPPV）の設定条件を変更する。	
	(C) 人工呼吸管理がなされている者に対する鎮静薬の投与量の調整	医師の指示の下、手順書により、身体所見（睡眠や覚醒のリズム、呼吸状態、人工呼吸器との同調等）及び検査結果（動脈血液ガス分析、経皮的動脈血酸素飽和度（SpO2）等）等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、鎮静薬の投与量の調整を行う。	
	(D) 人工呼吸器からの離脱	医師の指示の下、手順書により、身体所見（呼吸状態、一回換気量、努力呼吸の有無、意識レベル等）、検査結果（動脈血液ガス分析、経皮的動脈血酸素飽和度（SpO2）等）及び血行動態が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、人工呼吸器からの離脱（ウィーニング）を行う。	
到達目標	1. 医師の指示の下、手順書により医療面接、身体所見及び検査結果等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し侵襲的陽圧換気の設定の変更ができるようになる。		
	2. 医師の指示の下、手順書により医療面接、身体所見及び検査結果等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し非侵襲的陽圧換気の設定の変更ができるようになる。		
	3. 医師の指示の下、手順書により医療面接、身体所見及び検査結果等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し人工管理がなされている者に対する鎮静薬の投与量の調整ができるようになる。		
	4. 医師の指示の下、手順書により医療面接、身体所見及び検査結果等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し人工呼吸器からの離脱ができるようになる。		
	5. 手順書案を作成し、再評価、修正できる能力を養う。		
	6. 医師、歯科医師から手順書による指示を受け、実施の可否を判断するために必要な知識を養う。		
	7. 実施、報告の一連の流れが適切に行える。		
評価方法	講義：eラーニングの受講及び講義確認テスト		
	演習：ペーパーシミュレーションによる演習及び模擬講義		
	試験：eラーニング上もしくは集合で修了試験を実施		
研修内訳	講義（21時間）	視聴時間45分＋講義確認テスト15分	
	演習（8時間）	視聴時間（イントロ）5分＋グループワーク45分＋視聴時間（解説）10分 ※演習はeラーニング教材を活用して指定研修機関で行う	
	試験	※修了試験は指定研修機関ごとに時間・設問数など設定してご利用ください	

学ぶべき事項		講師	所属	研修方法	通番
(共通) 呼吸器 (人工呼吸療法に係るもの) 関連の 基礎知識	人工呼吸療法の目的、適応、禁忌	薬師寺 泰匡	岸和田徳洲会病院救命救急センター医長	講義	1
	人工呼吸療法に関する局所解剖、人工呼吸療法を要する主要疾患の フィジカルアセスメント	薬師寺 泰匡	岸和田徳洲会病院救命救急センター医長	講義	2
	人工呼吸療法を要する主要疾患の病態生理	薬師寺 泰匡	岸和田徳洲会病院救命救急センター医長	講義	3
	人工呼吸器管理の適応と禁忌	川原 加苗	福岡徳洲会病院 救急総合診療部	講義	4
	人工呼吸器のメカニズム (構造と種類)	川原 加苗	福岡徳洲会病院 救急総合診療部	講義	5
(A) 侵襲的陽圧 換気の設定の変更	侵襲的陽圧換気の設定の目的、選択と適応	鈴木 慧太郎	岸和田徳洲会病院救命救急センター	講義	6
	侵襲的陽圧換気の設定条件の変更の適応と禁忌	鈴木 慧太郎	岸和田徳洲会病院救命救急センター	講義	7
	侵襲的陽圧換気の設定条件の変更に伴うリスク (有害事象とその対策 等)	鈴木 慧太郎	岸和田徳洲会病院救命救急センター	講義	8
	侵襲的陽圧換気の設定条件の変更方法	鈴木 慧太郎	岸和田徳洲会病院救命救急センター	講義	9
	侵襲的陽圧換気の設定の変更 (ペーパーベシエント) (1)	薬師寺 泰匡	岸和田徳洲会病院救命救急センター医長	演習	10
	侵襲的陽圧換気の設定の変更 (ペーパーベシエント) (2)	薬師寺 泰匡	岸和田徳洲会病院救命救急センター医長	演習	11
(B) 非侵襲的陽 圧換気の設定の変 更	非侵襲的陽圧換気の設定の目的、設定条件の選択	鈴木 慧太郎	岸和田徳洲会病院救命救急センター	講義	12
	非侵襲的陽圧換気の適応と禁忌	近藤 夏樹	亀田総合病院 集中治療科	講義	13
	非侵襲的陽圧換気の設定条件の変更に伴うリスク (有害事象とその対 策等)	近藤 夏樹	亀田総合病院 集中治療科	講義	14
	非侵襲的陽圧換気の設定条件の変更方法	近藤 夏樹	亀田総合病院 集中治療科	講義	15
	非侵襲的陽圧換気の設定の変更 (ペーパーベシエント) (1)	薬師寺 泰匡	岸和田徳洲会病院救命救急センター医長	演習	16
	非侵襲的陽圧換気の設定の変更 (ペーパーベシエント) (2)	薬師寺 泰匡	岸和田徳洲会病院救命救急センター医長	演習	17
(C) 人工呼吸管 管理がなされている 者に対する鎮静薬 の投与量の調整	人工呼吸管理がなされている者に対する鎮静の目的	鈴木 慧太郎	岸和田徳洲会病院救命救急センター	講義	18
	人工呼吸管理がなされている者に対する鎮静の適応と禁忌	薬師寺 泰匡	岸和田徳洲会病院救命救急センター医長	講義	19
	人工呼吸管理がなされている者に対する鎮静に伴うリスク (有害事象 とその対策等)	薬師寺 泰匡	岸和田徳洲会病院救命救急センター医長	講義	20
	人工呼吸管理がなされている者に対する鎮静薬の選択と投与量、鎮静 の方法	薬師寺 泰匡	岸和田徳洲会病院救命救急センター医長	講義	21
	人工呼吸管理がなされている者に対する鎮静薬の投与量の調整 (ペー パーベシエント) (1)	薬師寺 泰匡	岸和田徳洲会病院救命救急センター医長	演習	22
	人工呼吸管理がなされている者に対する鎮静薬の投与量の調整 (ペー パーベシエント) (2)	薬師寺 泰匡	岸和田徳洲会病院救命救急センター医長	演習	23
(D) 人工呼吸器 からの離脱	人工呼吸器からの離脱の目的	薬師寺 泰匡	岸和田徳洲会病院救命救急センター医長	講義	24
	人工呼吸器からの離脱の適応と禁忌	薬師寺 泰匡	岸和田徳洲会病院救命救急センター医長	講義	25
	人工呼吸器からの離脱に伴うリスク (有害事象とその対策等)	薬師寺 泰匡	岸和田徳洲会病院救命救急センター医長	講義	26
	人工呼吸器からの離脱の方法	薬師寺 泰匡	岸和田徳洲会病院救命救急センター医長	講義	27
	人工呼吸器からの離脱 (ペーパーベシエント) (1)	薬師寺 泰匡	岸和田徳洲会病院救命救急センター医長	演習	28
	人工呼吸器からの離脱 (ペーパーベシエント) (2)	薬師寺 泰匡	岸和田徳洲会病院救命救急センター医長	演習	29